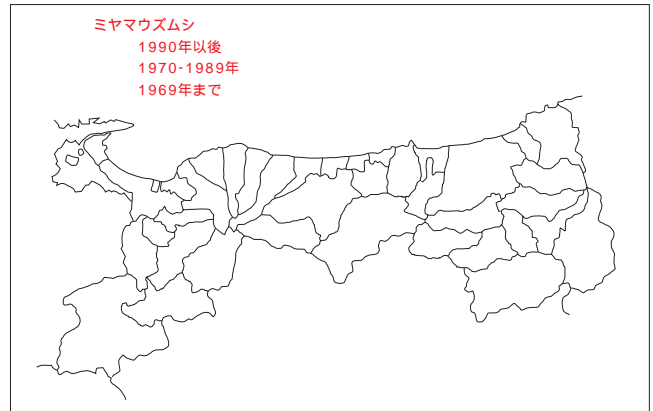
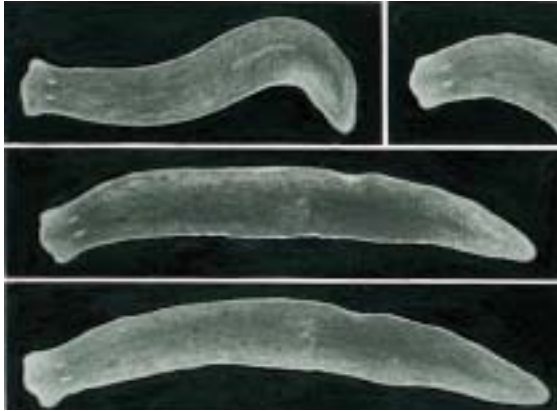


ミヤマウズムシ ウズムシ目(三岐腸目)ヒラタウズムシ科
Phagocata vivida (Ijima & Kaburaki, 1916)

鳥取県：準絶滅危惧(NT)

環境省：-



選定理由：冷水域にすむ狭適温性種で水質汚染には弱く、県内での生息は河川の上流～源流域に限られる。

形態と生態：体長20mm以下で細長い。体の背面は灰色～灰黒色、頭部左右にとがった触角があり、2眼をもつ(眼のまわりに小さな白域がある)。生物学的な水質階級の貧腐水性域の指標種の一つで、県内では河川の上流～源流域(標高500-1500m)に生息に限られる。県内河川の下流域には、ナミウズムシ *Dugesia japonica* Ichikawa & Kawakatsu(サンカクアタマウズムシ科)が生息する。こちらは海岸近くの低標高地から出現し、ほぼ標高1000mくらいが限界。

分布(県内)：全域の高標高の山域。確実な記録は氷ノ山、那岐山、大山阿弥陀川の上～源流部(標高520m以上)、行者谷、榊水原の冷小流や湧泉、船通山(日野川源流部)。同等標高であれば、他の山域の源流部にも生息している可能性が高い。

分布(県外)：北海道(大雪山以南)、本州、四国、九州；朝鮮半島、ロシア沿海州、中国東北部。

生息環境：標高500m以上の冷たい山地溪流。低地でも、冷泉に出現する可能性はある。

保護上の留意点：源流部の開発や水質汚染に注意が必要。

文献：

川勝正治(1955) 淡水産プラナリアの垂直分布に関する資料, I. 大山地. 京都学芸大学学报, B, 7: 45-51.

川勝正治・大河原玄沖(1969) 中国山脈の淡水産プラナリアの生態調査報告, 陸水雑, 30: 151-164.

Kawakatsu, M., Timoshkin, O. A., Porfirjeva, N. A. & Takai, M. (1995) Geographical distribution of *Phagocata vivida* in the Far East. *Hydrobiologia*, 305: 63-70.

執筆者：川勝正治

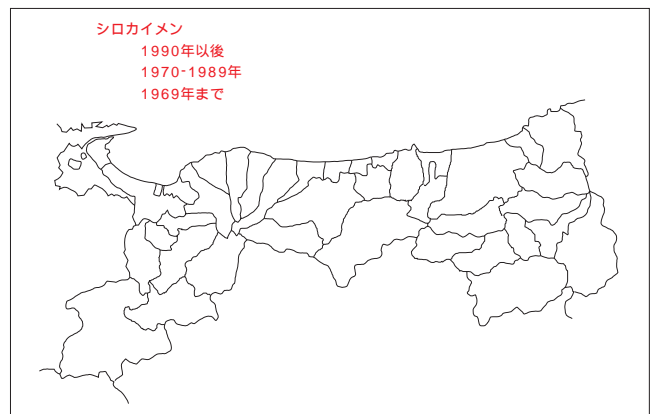
シロカイメン ゼラカイメン目タンスイカイメン科
Spongilla alba Carter, 1849

鳥取県：準絶滅危惧(NT)

環境省：-



東郷池 2001.7.17



選定理由：汽水性の種で、県内からは東郷池のみから知られる。全国的にも国内では他に鳥根県宍道湖と茨城県潤沼から知られるのみ。

形態と生態：基質を盤状に覆うように付着するが、表面には多くの不規則な形の短い突起をもつ。汽水域にのみ生息。冬季は芽球で越冬する。

分布(県内)：東伯郡東郷町東郷池。

分布(県外)：宍道湖(鳥根県)、潤沼(茨城県)；西南アジア、アフリカ、オーストラリア、アメリカ合衆国、南アメリカ。

生息環境：汽水湖。

保護上の留意点：現状の塩分濃度の大きな変更を生じさせないこと。

執筆者：益田芳樹

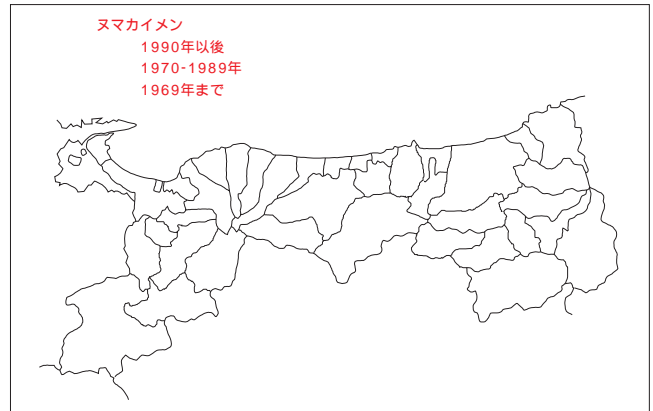
ヌマカイメン ザラカイメン目タンスイカイメン科
Spongilla lacustris (Linnaeus, 1758)

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省： -



東伯町西岡谷池 2001.6.20



選定理由：北方種で近畿以北では普通にみられるが，中国地方では鳥取県の1カ所のため池で見ついているのみ。

形態と生態：基質を盤状に覆うように付着するが，表面にはいくつかの指状の突起をもつ。体は体内に緑藻の共生藻をもつために緑色。

分布(県内)：東伯郡東伯町西岡谷池。

分布(県外)：西南日本では香川県に2カ所と大分県の1カ

所；世界では寒温帯地方。

生息環境：河川，湖沼，ため池。

保護上の留意点：生息域の周囲を含め大きな環境変化をしないこと。水を干す場合には冬季に実施するとともに芽球を採取し避難させること。

執筆者：益田芳樹